

■日時 令和6年8月15日(木) ■天候 晴れ

東京都立世田谷泉高校 対 天理高校

■球場 JPアセットスタジアム江戸川 第4試合 4回戦 準決勝 ■試合時間 2時間50分 ■備考

■審判 球審:竹本 塁審:福田 牧野 田村

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9						計	安	失
天理高校	東近畿・奈良	0	4	0	4	0	0	0	2	0						10	6	1
世田谷泉	東京2	0	1	0	0	0	0	5	0	0						6	7	7

天理高校																			
	ポジション			氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1	中			水田一成	4	0	0	0	四球	右失	遊ゴ		三振		投ゴ	四球			
2	三		捕	船越功	4	1	1	0	三振	遊安		四球	三振		四球	三振			
3	捕		投	片山蒼四郎	3	1	2	1	遊安	左犠		四球	四球		中安		一失		
4	遊		三	高尾昂志	5	1	0	0	投飛	一飛		四球	捕邪		三ゴ		中飛		
5	一			小西健太	4	1	0	0		四球	四球	一飛		三振	右飛		投併		
6	右	左		肥後一希	5	3	2	3		左安	一失	中2		一失		二失			
7	二			山崎善春	2	1	0	0		右飛	一邪	四球		四球		四球			
8	左			中林章太郎	4	1	1	1		一安	遊飛	三ゴ		遊ゴ					
8		右		中塚大陽	1	0	0	0									一ゴ		
9	投			鈴木快	1	1	0	1		四球	四球	三振							
9	打			櫻井誠也	1	0	0	0							一ゴ				
9		投	遊	奥田泰人	1	0	0	0									三振		
合計					35	10	6	6	残塁:13 併殺:0										
備考																			

■バッテリー

投手	捕手
鈴木快	片山蒼四郎
奥田泰人	船越功
片山蒼四郎	

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
鈴木快	5	21	2	4	5	1	84
奥田泰人	1 2/3	12	4	2	3	5	40
片山蒼四郎	2 1/3	8	1	5	0	0	39

世田谷泉																			
	ポジション			氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9		
1	中	二	中	菅谷颯太	3	1	0	0	三ゴ		三振		四球		四球	三振			
2	遊	投	遊	金子怜史	4	1	2	0	三振		死球		右安		右安		三振		
3	一			須郷遥斗	5	0	1	0	中飛		一邪		三ゴ		三振		中安		
4	投	三		大澤奏太	4	1	1	2		遊飛		三振		四球	左安		二ゴ		
5	捕			大城良太	4	2	1	2		四球		三振		中飛	左2		右邪		
6	二	遊	二	羽木謙士	3	0	2	1		四球		右安		三失	中安				
7	三	投	中	山中太郎	3	0	0	0		四球		投ゴ		二ゴ	三振				
8	左			佐藤成実	4	0	0	1		一ゴ			遊ゴ	三振		三振			
9	右			内山珀	2	1	0	0		三邪			一ゴ						
9	打	右		與陸弥	1	0	0	0							四球	三振			
合計					33	6	7	6	残塁:8 併殺:1										
備考																			

■バッテリー

投手	捕手
大澤奏太	大城良太
山中太郎	
金子怜史	
須郷遥斗	

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責	投球数
大澤奏太	2	13	4	1	3	2	45
山中太郎	5	29	1	5	11	3	120
金子怜史	0 2/3	4	1	0	0	0	27
須郷遥斗	1 1/3	4	0	1	0	0	14

■戦評

江戸川球場で行われた準決勝第2試合は、前回大会で連覇が途切れた奈良・天理高校と準々決勝で兵庫県立西宮香風を接戦で勝ち抜いた東京都立世田谷泉高校との対戦となった。2回表、天理は8番中林の安打で1死満塁になると9番鈴木が四球を選び押し出して得点、その後も敵失と犠飛で計4点を先制した。その裏、世田谷泉高校は3四球で満塁になると、8番佐藤の内野ゴロで1点を返した。4回表、天理も3四球で満塁になると、6番肥後が左中間へ走者一掃となる適時2塁打を放ち、なおも内野ゴロで加点し、計4点を追加した。7回裏、世田谷泉は四球と安打で1死満塁になると4番大澤、5番大城、6番羽木の長短3連打で大量5点を奪い2点差まで詰め寄ったが、8回表、天理が1死2、3塁からボークと暴投で2点を追加した。天理は、鈴木、奥田、片山の継投で終盤2点差まで詰め寄られるも最後は10-6で勝利した。これで2年ぶりの決勝へと駒を進めた。一方、敗れた世田谷泉は4投手の継投で14四死球と7失策で最大7点差まで離されるが、終盤粘りをみせ詰め寄るも前半の失点が悔やまれる結果となった。